

令和6年度 府立宮津天橋高等学校宮津学舎 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>【スクール・ミッション】</p> <p>建築科・普通科を設置する学舎制高校として、探究的で質の高い教育活動を推進することにより、知識を深めて個性や能力を伸ばし、主体的に人生を切り拓いていくことができる生徒を育み、我が国や地域の発展貢献するリーダーを育成する。</p> <p>【教育理念】</p> <p>真理と正義を希求し、豊かな人間性を備え、幸せな人生と社会を創造する人間を育成する。</p> <p>【スクール・ポリシー(三つの方針)】</p> <p>1 育成を目指す資質(三つの力)に関する方針(このような力を育てます) ～社会的使命感と青雲の志～</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広く深い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培う。 自主自律の精神を養うとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に貢献する。 伝統と文化を尊重し、郷土を愛し、地域社会を守り受け継ぐとともに、国際社会の平和と発展に寄与する。 <p>2 教育課程の編制及び実施に関する方針(このような教育活動を行います) ～しなやかな思考と豊かな人間性や感性を持った「自立する個性」～</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業第一主義」のもと、進路実現に向け、偏りのない学力と深い知識と教養を身に付けるとともに、未来を担うリーダーの資質を養う。 探究的で実践的な活動を通して、他者とつながりながら新しい価値を生み出そうとすることで主体的に社会の形成に参画し、自身と社会のwell-being(幸福)につなげる姿勢を育てる。 特に普通科特進クラスでは、質の高い高度な学びと活動で、より幅広い視野と深い教養を身に付け、難関を乗り越えるための意志力と才能を磨く。 建築科では、基礎学力の定着と専門性の向上を図るとともに、多様な地域連携を通じた学びの中で人間性や感性を磨き、積極的に地域社会に貢献しようとする態度を養う。 <p>3 入学者の受入に関する方針(このような生徒を待っています) ～夢見る個性、夢追う個性、夢叶える個性～</p> <ul style="list-style-type: none"> 高い志を持って主体的に学び、楽しみながら自身の個性や能力を伸ばしたい生徒 学校行事、探究活動や部活動等あらゆることに進んで挑戦したい生徒 試行錯誤を重ねながら問題に立ち向かい、新たな価値を創造する意欲のある生徒 特に特進クラスについては、将来の進路について明確な目的意識とその実現に向けての向上心を持ち、さらなる高みを目指し挑戦し続ける生徒 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇新学習指導要領に基づく指導、タブレット端末の活用が進んだ。学校DX研修により教職員側の活用の幅が広がった。さらにICT環境の活用により業務の負担軽減にもつながった。 ◇各種教育課題に関する教職員研修を実施し、意識向上につなげた。 ◇学校行事、部活動、遠隔教育システムを活用した授業や会議、進路指導体制など、学舎間連携が進んだ。また、5月以降はコロナ禍以前に近い形で教育活動を展開することができた。 ◇スクール・ミッションに基づいたスクール・ポリシーを作成し、宮津学舎の特色を鮮明化できた。 ◇総合的な探究の時間では前年度よりも取組内容の改善と外部との連携が充実し、生徒の主体的な学びや行動につながった。キャリア形成にもつながるものとなった。 ◇組織的な進路指導体制により国公立大学47名、公務員2名、就職内定率100%という第1期生に劣らぬ素晴らしい進路実績につながった。 ◇年度当初の部活動加入率は93%であった。体育系・文化系ともに活躍した。 陸上競技部・ボート部・ヨット部が全国高校総体等の全国大会に出場 書道部・美術部・写真部の生徒が全国大会へ出展 フィールド探究部が第12回イオンエコワングランプリ普及・啓発部門ワンパーセントクラブ賞(全国3位相当)、令和5年度大気・水・土壤保全活動功労者表彰(環境省水・大気環境局長表彰)を受賞 硬式野球部が夏の京都府予選で府ベスト8進出 ◇ボランティア活動が評価され、ボランティア功労者表彰(厚生労働大臣表彰)を受賞 ◇建築科では地域と連携した取組や外部講師による授業などを積極的に取り入れた。また3年生の多くの生徒が教育長表彰を受賞、5名が国公立大学に合格するなど成果につながった。 ◇命と人権の尊重を教育活動の根幹として分掌間の連携を取りながら教育活動を進めることができた。 ◇タイムリーな広報活動により本校志願者の獲得につなげた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆観点別評価は負担も多く、客観的かつ効率的な評価手順を継続して取り組む。 ◆今年度は全学年がタブレット端末を所持することから、教職員のICT活用スキルの一層のレベルアップと教育活動の充実に取り組む。また、高等学校DX化推進化事業をベースにICT環境整備や情報活用能力の向上を図る ◆開校5年目を迎え充実期となることから、両学舎の生徒・教職員の交流・連携を進め、スケールメリットを活かして各種教育活動の活性化を図る。 ◆総合的な探究の時間は主体的に学び、考える姿勢と行動を起こす姿勢を重視し、外部との一層の連携を推進することで生徒の主体性とキャリア形成につなげる。 ◆命と人権を中心に様々な教育的課題を学ぶ機会を計画的に設けたが、人権に関わるものを含め生徒の問題行動も発生した。引き続き研修、分掌間の連携、生徒に対する丁寧な指導を継続する。必要に応じて専門機関との連携。 ◆中学校を中心とした広報活動だけでなく、在校生や保護者等、地域等への発信を充実させ、本校教育により関心を持ってもらう。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 高度な知力や教養と豊かな人間性を備えた未来の社会に貢献できるリーダーを育てる質の高い教育を提供する。また、それを担保するために、教職員の資質向上と教育課題に組織的に対応する体制を充実させる。 2 学舎制高校として学舎、学科を越えた一体感のある学校づくりを目指すとともに、宮津学舎ならではの特色を伸ばさせる。 3 探究活動や課題学習を通して生徒一人ひとりの優れた能力・適性を伸張させ、自身の未来(希望進路の実現)を切り拓く力を育む。 4 部活動、体験活動、ボランティア活動や学校行事を通して視野や知見を広げるとともに、協働性や社会的使命感を育む。 5 命と人権を尊重する態度を育てる教育活動を充実させるとともに、問題行動等に組織的に対応し、安心・安全を保障する学校づくりを進める。 6 家庭・地域社会と一層の連携を図り、チームとして教育活動を充実させる。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営 組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ○高度な知力や教養と豊かな人間性を備えた未来の社会に貢献できるリーダーを育てる質の高い教育を提供する。また、それを担保するために、教職員の資質向上と教育課題に組織的に対応する体制を充実させる。 ○学舎制高校として学舎、学科を越えた一体感のある学校づくりを目指すとともに、宮津学舎ならではの特色を伸長させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年タブレット端末導入、新学習指導要領・観点別評価の対象となるため、前年度までの課題を整理し、教育の質の向上を図る。また、各種研修やOJTによる指導力の向上に努める。 ○ICT機器等の施設設備の充実を中心に、生徒の学習環境、教職員の職場環境の更なる改善を図る。 ○前年度に引き続き、学舎間の諸課題を整理し、その解決・改善に努めるとともに、ポストコロナ期として学舎間の教育活動の交流を充実させることで、より一体感のある学校を構築する。同時に、宮津学舎ならではの教育実践の特色を伸長させる。 		
学習指導 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○探究活動や課題学習を通して生徒一人ひとりの優れた能力・適性を伸張させ、自身の未来(希望進路の実現)を切り拓く力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○探究活動や課題活動の中で、生徒が主体的に学び、感性を磨く機会となる指導の在り方について年次更新を進め、生徒の一層の成長に繋げる。 ○それぞれの生徒の主体的な進路選択に向け、組織的かつきめ細かい支援体制の下で、生徒の希望進路の実現に繋げる。 		
生徒指導 特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動、各種体験活動や学校行事を通して能力と可能性を広げるとともに、自主自律の精神、協働力や社会的使命感を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各場面で他者への理解、思いやりを持ち、主体的に行動できる生徒の育成を常に意識した生徒指導を行う。 ○生徒の成長のために重要な役割を果たす部活動、ボランティア活動、各種学校行事などの機会を充実させ、生徒の人間的成長に繋げる。 		
健康安全	<ul style="list-style-type: none"> ○命と人権を尊重する態度を育てる教育活動を充実させるとともに、問題行動等に組織的に対応し、安心・安全を保障する学校づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権感覚の涵養をベースとした規範意識の向上を図り、いじめ等につながる行為を見逃さない。 ○時宜に応じた面談や声かけ、家庭や関係機関との緊密な連携を図りながら思春期の心の揺れを受けとめ、常に情報を共有し、チームで生徒の成長を支援する。 		
家庭・地域 社会連携	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭・地域社会と一層の連携を図り、チームとして教育活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のさまざまな教育資源を積極的に活用するとともに、外部団体・機関との連携の拡充を図り、幅広い学力と郷土愛の醸成に努める。 ○総務企画部を中心に、各分掌・部活動等が連携して広報活動を効率的かつタイムリーに発信することで、本校への理解と信頼を広める。 		

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度への 改善の方向 性	
---------------------	--